

九州臨床心理学会 第53回 宮崎大会
大会テーマ：クライアントの役に立つ心理臨床
ご案内（第1号通信）

皆さまにおかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

九州臨床心理学会第53回宮崎大会を下記の日程、会場にて開催いたします。大会テーマを「クライアントの役に立つ心理臨床」とし以下のプログラムを立てました。

初日は、①問題解決しない事例検討会、②PCAGIP の基礎を学ぼう、③心理臨床とアドボカシー実践における自己省察ワーク、の3つのワークショップを開催します。いずれの企画も心理職としての自分自身のクライアントとの関わり方を振り返る機会になるのではないかと考えています。

2日目は一日を通して事例検討をしっかりとやっていきます。事例発表はその事例についてだけでなく自分自身の日々の臨床全体を振り返る契機になります。多くの方々からのお申し込みを期待しております。なお、今回は自主シンポジウムの枠を設けず終日事例検討としております。

最終日の大会企画シンポジウムは『心理のお作法～クライアントの役に立つ臨床を行うために／心理臨床の基礎の基礎～』と銘打ち、私たちの心理臨床の基本的なことに目を向け、その専門性がどこにあるのかを考える場にしたいと思っています。

本大会を通して自分自身の臨床を振り返り「クライアントの役に立つ心理臨床」について皆様と一緒に考えてみたいと思います。

本大会をより充実したものとするために多くの方からの事例研究発表及びご参加の申し込みをお待ちしております。

大会2日目終了後には交流会を企画しております。こちらの方にも皆さまぜひご参加下さい。

九州臨床心理学会第53回宮崎大会

大会長 柳田 哲宏

1. 日 時

2026（令和8年）年3月6日（金）～ 3月8日（日）

2. 会 場

宮崎市民プラザ4F URL <https://www.siminplaza.com>

〒880-0001 宮崎市橘通西1丁目1番2号 TEL 0985-24-1008

※宮崎市役所の敷地内の施設です。

※交通アクセス及び駐車場及び同料金等については「宮崎市民プラザ」のホームページをご覧ください。

3. 日 程

| | | | | | | |
|---------|-------------|------------------------|------------------------|------------------------|----------------------|---------------------|
| 3/6 (金) | | | 受付 13:00~ | ワークショップ 14:00~17:00 | | |
| 3/7 (土) | 受付 9:15~ | 事例研究① 10:00~12:00 | 総会及び昼休み 12:00~13:30 | 事例研究② 13:30~15:30 | 事例研究③ 15:45~17:45 | ◎交流会 19:00~21:00 |
| 3/8 (日) | 受付 9:15~ | 大会シンポジウム 9:45~12:00 | 閉会 12:00~12:15 | | | |

※各県心理師（士）会の会長会は、3月7日（土）総会后、「小会議室1」にて行います。

※現段階での予定です。今後調整の可能性があります。

※3/6(金)ワークショップ

①問題解決しない事例検討会（心理師士以外の方でも、本WSのみの参加は可能です。ただし、職種・所属先等で参加の可否を判断させていただきます。）

・講師：西念奈津江 先生

HARP（北陸アディクションリカバリーパートナーズ）、北陸 HIV 情報センター

令和7年度厚生労働省「依存症に関する調査研究事業」

「ギャンブル問題を含めた依存症支援のための新しい地域連携モデルの効果研究」（通称：サクマ班）

研究協力者 西念 奈津江（さいねん・なつえ）

〈概要〉

本検討会は、日本福祉大学の田中和彦さんが開発した、クライアントに対する「仮説生成」を目的とする事例検討会です。年がら年中何かと行き詰まっている私たちサクマ班が、その普及啓発と効果検証にジタバタ取り組んでいます。本検討会では、クライアントとのかかわりの中で日々生じる「なんで？」「どうして？」「わけわからん！」について、その背景に一体クライアントのどんな思いがあるのか、「ああかもしれない」「こうかもしれない」と仮説を立てます。仮説を立てておしまいなので、実は無責任な取り組みです。関西弁でいうところの「知らんけど」です。私たちは「寸止めのススメ」と呼んだりしています。

この「寸止め」がなかなか難しい、という声を聞きます。なぜでしょうか。おそらく私たちが普段、無意識のうちに、その先まで進んでしまっているからではないかと思います。仮説がいつの間にか「きっとそうだ」という確信となり、「だったらこうしよう」と方針が立ち、支援者間での役割分担が決まる。そんな事例検討会やケース会議を、私もこれまで幾度となく経験してきました。あるいは、日々、目の前の火消しに追われ、そもそも仮説を立てるところではないのかもしれませんが。そんなとき、本来問題解決の主体であるはずのクライアントは、いつもどこかに置き去りです。

私たちは本検討会を通して、あらためて、クライアントの尊厳と主体性を何よりも大切にす、というかわりの原点に立ち返りたいと考えています。それは同時に、私たち自身の尊厳と主体性を守り、あるいは取り戻す、すなわち支援者自身にエンパワメントをもたらす営みでもあります。職種や肩書、経験の多寡を問わずフラットな立場でクライアントの生きてきた歩みに思いを巡らし、創造力を存分に働かせて仮説を立てるこの時間はきっと、問題解決思考にとらわれた私たちの頭と肩のコリをほぐしてくれることでしょう。

②PCAGIPの基礎を学ぼう～PCAをより丁寧に～

・講師：クアモト美穂 先生

大学時代は、伊藤博先生（ロジャース選集(上)(下)、ニューカウンセリング、人間中心の教育を実現する会会長）

に学び、大学院では村山正治先生（PCA、EG、フォーカシング、スクールカウンセリング）および野島一彦先生（PCA、

EG)の研究室で PCA(Person-Centered Approach)について深く学ばれています。臨床活動としては、学校臨床、病院臨床、私設相談、SV、フォーカシングワークショップなど多様な場で PCA を大切にしながら活動されています。

〈概要〉

PCAGIP(Person-Centered Approach Group Incident Process)は、PCA(Person-Centered Approach)に基づいた事例検討法です。このワークショップでは、PCAGIP についての理解を深め、体験的に学ぶ場を作ります。

開発者の村山正治先生は、「事例検討会で多くの時間を費やし作成したレジメで緊張する事例検討会に挑み、傷つく学生」を見て心を痛めていたことから PCAGIP を開発されました。ですから、「事例提供者」を中心として、大切に事例検討法です。解決することが目的ではなく、明日からその事例提供者が面接を行っていくためのエネルギーのようなものになる「ヒント」があれば良いということが貫かれています。面接をするのは「事例提供者」であり、助言する人ではありません。事例提供者が何を得られて行くのかは、その人のものです。それを PCA のグループで支えて行く事例検討法になります。

はじめに、事例検討の流れを説明し、実際に PCAGIP による事例検討を体験していただきます。その後、ファシリテーターとしてどのようにその場の器を作っていくか、またその際に PCA の考え方をどの様にクアモト自身が行っているかを具体的にお話します。実際 PCAGIP を行うにあたって、どうしてもファシリテーターによって検討会の空間が左右されるからです。ここで PCA の全てを体験することは到底出来ませんが、インシデントプロセスという方法論だけでなく PCAGIP の面白さについて学ぶ機会となると思います。そして、自分の中で考える PCA をどのような形で作り出して行くか考える機会となれたら嬉しいです。

最後に、PCAGIP は、PCA がど真ん中を走る大きな柱となっていますので、人間性心理学以外の学派でやってこられた方にとっては戸惑われるところもあるかもしれませんが、それでも、この機会に PCA に触れてみよう、体験してみようと思われる方はどうぞご参加ください。

③心理臨床とアドボカシー実践における自己省察ワーク

・講師：蔵岡 智子 先生

東海大学文理融合学部准教授

北海道大学大学院 教育学研究院 附属子ども発達臨床研究センター 研究員

熊本県臨床心理士・公認心理師協会 倫理担当理事

編著書：『心理支援における社会正義アプローチ入門 不公正の維持装置とならないために』

和田香織・杉原保史・井出智博・蔵岡智子(編著) 誠信書房

論文：蔵岡・井出(2025)スクールカウンセラーはアドボカシーにどのように取り組んでいるのか、日本教育カウンセリング研究, 13, 9-19

〈概要〉

近年心理支援において人権を重視する流れはますます強くなり心理支援におけるアドボカシー(権利擁護)が注目されています。心理支援におけるアドボカシーとは、すべての人が公平に資源にアクセスできる公正な社会を目指す社会正義を達成するために心理支援者が取る行動のことを指します。クライアントの思いを代弁するといった個人レベルの実践から、クライアントの権利を保障するため学校や会社などの組織の仕組みに働きかける実践、より大きな視点に立ち社会全体の制度に働きかける実践もあります。

アドボカシー実践においては、心理支援者自身も社会の一員として、さまざまな規範や価値観を内面化しているため、それらを無自覚に「普通」だと捉えてしまい支援につなげてしまう危うさがあります。このような認識では、マイノリティや社会の既存の枠組みの周辺に追いやられた、すなわち周縁化されたクライアントへの支援が、偏ったものや一方的なものになりかねません。たとえば、貧困の中で生活している人々は、経済的な理由から教育や医療などの社会的資源へのアクセスが制限され、排除されてし

まうことがあります。このような状況にあるクライアントに対して、支援者が自らの「普通」を基準にして支援を行うと、本人の抱える困難や背景を適切に理解できず、結果としてクライアントをさらに孤立させてしまう可能性があるのです。そのため、支援者には、自らが内面化している価値観を省察し、周縁化された立場にあるクライアントの視点に立って支援を行う姿勢が求められています。心理支援者の自己省察はアドボカシー実践の基盤となるものなのです。

本ワークショップでは、アドボカシー実践の前提となる心理支援者の自己省察に焦点を当て、個人のアイデンティティを見つめ直すワーク、経済的価値観を例に自身の価値観や偏見に気づくワーク、個人の社会化のプロセスを振り返るワークなどを行います。心理支援者自身が持つ前提を棚卸し、批判的に問い直す作業は時に否認や戸惑いを伴うことでしょう。それを学びのチャンスと捉え、自己省察のきっかけをつかんでももらえたらと思います。

※3/8(日)大会シンポジウム

『心理のお作法～クライアントの役に立つ臨床を行うために／心理臨床の基礎の基礎～』

話題提供 丸山 悠子(社会医療法人 如月会 若草病院)

山根 佳代子(社会福祉法人 再生会 児童養護施設 さくら学園)

指定討論者 本山 智敬(福岡大学人文学部 教育・臨床心理学科)

司 会 柳田 哲宏(宮崎カウンセリングセンター)

<企画主旨>

心理職への社会的要請は年々増しており、それに伴いその専門性も厳しく問われています。一方で“心のケア”という名のもと様々な案件に慌ただしく追われている方も少なくないのではないのでしょうか。そういう状況では自らの臨床活動を振り返る余裕もなく目の前の仕事を“こなす”ことに精一杯にならざるを得ない現実もあるでしょう。

本シンポジウムでは心理職の専門性を担保するための手立ての一つとして“心理臨床の基礎の基礎”について考えてみたいと思います。

以下のようなことについてフロアの皆様と議論を深めていければと考えています。

- ・クライアントと関わる際に心がけるべき態度、振る舞い、心構え(＝心理のお作法)について考える
- ・クライアントと自分自身との関係性を常に振り返りながら関わっていくことについて考える
- ・自分自身の関わり方を常に振り返りながら関わっていくことについて考える
- ・クライアントの可能性を広げていくための話のきき方や関わり方について考える
- ・クライアントと関わる際に感じる困難さを乗り越える工夫／臨床での実践知について考える
- ・その上で「心理の専門性」について考える

専門職である参加者の皆さまからすれば「何を今さら」という話かもしれませんが、自らの臨床活動を今一度振り返ってみる機会になればと考えています。フロア参加の皆さまからも多くのご意見、ご示唆等がいただけることを期待しております。

4. 事例研究の募集について

専用の「事例発表申込書」に必要事項を記入のうえ、2025年10月31日(金)までにメールにてお申し込みください。なお、個人情報保護のため、事例発表申込書にはパスワードを設定してください。

申込アドレス：info@kyurinshin.org

チャレンジ枠「太学院生及び心理師士資格取得5年未満の方」も設けています。なお、申し込み多数の場合は大会事務局にて選考させていただきます。予めご了承

承ください。

※宮崎大会参加申込は11月発出予定の第2号通信でのご案内となります。

5. 大会参加費

九州臨床心理学会員 5,000 円、同非会員 6,000 円、大学院生 1,000 円

★WS①のみ参加の方は 1,000 円

※会員とは、「九州臨床心理学会」の会員であり、各県の心理師（士）会の会員とは異なります。

※事例研究発表は、九州臨床心理学会員とし、共同発表の場合は同学会員が含まれていることとします。

※本学会入会希望の方はホームページのお問合せ <http://kyurinshin.org> を参照ください。当方より各県の地区委員より連絡し、各地区委員より連絡を差し上げます。

※非会員及び大学院生は、臨床心理関連業務に携わるか、関連する研究科・専攻に所属し、守秘義務を遵守できる方に限定させていただきます。

※本大会は日本臨床心理士資格認定協会の教育研修機会としての承認学術団体として認定されておりますので、臨床心理士資格更新ポイントの取得ができます。

※日本公認心理師協会（専門認定公認心理師資格）の申請ポイントは申請予定です。

※会費の徴収に関しては2号通信にて詳細をお知らせ致します。

6. 交流会

参加費：5,000 円（飲み放題込）立食形式（中華料理）

会 場：ホテルメリージュ3F「鳳凰の間」（大会会場より徒歩13分）

7. その他

プログラムの詳細（事例研究等）につきましては、学会参加の申し込みとあわせて11月発行予定の第2号通信でお知らせする予定にしております。

8. 大会に関するお問い合わせ（事務局）

下記をお願いいたします。

九州臨床心理学会第53回宮崎大会準備委員会事務局 三角 健

E-mail：info@kyurinshin.org

郵送：〒880-0015 宮崎市大工3丁目342番地2F

一般社団法人 STEP UP 三角 健 宛て